はじめに

「激動期のアメリカ」、これが本著のタイトルである。アメリカの「変化」について書かれている。しかし国の「変化」というのは実に全体像を把握しにくいものである。政治・経済・社会・文化の変化を把握する手がかりを得るために自然の変化に目を向けてみよう。

我々は様々な自然災害を目にする。地震については、過去 10 年間、体感がないものを含め日本では年間 10 万～ 30 万回程度起こっている。その中で東日本大震災級の地震は 1,000 年に 1 回と言われる。火山の噴火のニュースもよく見かけるが、活火山の桜島では年間 1,000 回の噴火が起こる時もあるし、休火山の富士山は 1707 年の宝永大噴火を最後に 300 年以上にわたって噴火を起こしていない。

日本におけるこれらの自然災害の多くは、海底プレートが大陸プレートの下に沈み込むことで起こる。海底プレートの一つである太平洋プレートは東から西へ動くが、その移動距離は年間わずか 8 センチである。そのわずかな移動距離によって起こる摩擦によって、あるところでは大地震や大噴火が起こされる。しかし、それがあまり起こらないところもあるし、地震によっては大陸プレートの活断層が引き起こすものもある。

政治・経済・社会・文化の変化についても、全体像を理解するためには、まず「地上」で起こる振動や熱を現場で正しく把握することが重要になる。しかしそれと同時に、理論を用いたり時間軸を長く取ったりすることで、「地下」のプレートの僅かな動きを捉え、それがどのようなメカニズムで地表の動きに影響を与えているのかも理解しなければならない。また一つのプレートが他のプレートとどのように関連しあっているのかを理解するために、より俯瞰した視点も必要となる。

トランプ政権の 4 年間はまさに「地上」で大きな動きが見られ、我々もそれに振り回された感がある。2021 年にバイデン政権が始動したが、前政権と何

が異なり、どの部分が変わっていないのかという議論が続いている。

本著は、トランプ政権が終わり、バイデン新政権が成立して約１年が経過した時点で、今一度アメリカにおいて起こっている変化についての理解を深めようというものである。そのために研究者とジャーナリストが集まった。ジャーナリストは、「地上」をよく知り、現場で声を聞き、それを現場の熱とともに伝えるプロである。研究者は、「地下」を分析するためにそれぞれの学問領域で理論を学び、論理的に伝えるプロである。この両者が本格的に協力して、アメリカの近年の変化を政治・経済・社会・文化等幅広いテーマで分析しようとする著書はこれまでない。

章の進め方はまずは「地下」の動きを理解するために研究者による第１部から始める。そして第２部では、中日新聞（首都圏では東京新聞）のアメリカ特派員経験者が「地上」の動きを現場の声とともに伝える。以下各章を簡単に説明したい。

第１部「理論から」は７章によって構成されている。政治学、社会学、歴史学、コミュニケーション学、文学の研究者が集まり、多面的にアメリカの水面下で起きている変化を捉える。扱うテーマは、選挙・政党制（第１章)、経済格差・社会政策・移民（第２章)、人種・警察（第３章)、宗教（第４章)、国際関係・ジェンダー（第５章)、政治的言説（第６章)、文化・社会的言説（第７章）と多岐にわたるが、記述したようにこれらの「プレート」は相互に作用し合っている。そしてそれらが摩擦を引き起こし、ひずみを生み出し、地表の変化を生じさせる。

第２部「現場から」は９章によって構成されている。アメリカ特派員として現場に赴き、人々の声に耳を傾ける経験をした新聞記者によるものである。現場で特に大きな振動となった以下のような出来事に焦点を当てている。ブラック・ライブズ・マター運動・対アジア人差別の拡大（第８章)、女性参政権 100 年と大統領選（第９章)、GAFA と地方紙の困難（第 10 章)、グリーン・ニューディールと原発の関係（第 11 章)、コロナ禍における銃問題（第 12 章)、Q アノン（13 章)、米中貿易問題（ 14 章)、日米同盟（15 章)、ハリウッドの政治性（第 16 章)。

読者の方の読み進め方は自由である。まずはアメリカの構造的な変化の全体像を掴みたいという方は第1部から読み始めていただければと思う。また「地上」で起きたことを把握した後に、「地下」で起こっていることを理解しようとするならば、第2部から読み始める選択肢もある。特定の問題について学びたいのであれば、第3章と第8章のように近い分野を合わせて読むこともできる。

記述したように、本書の目的は、冷静さと現場の熱、俯瞰性とミクロ視点、そしていわゆる「アメリカ政治本」よりも幅の広いテーマを取り扱うことで、より複眼的にアメリカという国で起こっている変化を理解しようとするものである。そうすることで、アメリカ政治や社会の行方、日米関係、そして広くは世界政治を理解するための視点を提供できれば幸いである。

各章の注表記について言及しておきたい。研究書において、インターネット上の情報の場合には通常URLとアクセス日を示す。しかし本著では、文字検索してすぐに見つかるものであればURLは掲載せず、また情報が後にアップデートされた場合以外にはアクセス日も記さない。

第2部の各章は、担当記者が中日新聞・東京新聞に自ら書いた記事を再構成した上で加筆修正したものである。直接取材した人物の肩書き、為替レートなどは取材当時のまま記している。また、写真は、取材先から提供を受けたもの以外、すべて記者が撮影したものを掲載した。

2021年10月

山岸敬和・岩田仲弘

激動期のアメリカ

— 理論と現場から見たトランプ時代とその後 —

目　　次

はじめに …… 山岸 敬和・岩田 仲弘 … i

第１部　理論から

第１章　なぜ共和党議員はトランプに従ったのか？
— 選挙政治と政党制の変化から —…… 松本 俊太 … 2
はじめに　2
1. 政党制と選挙の基礎知識　3
（1） アメリカ政治を理解する前提　3
（2） 少しずつ変化しているもの１：二大政党の分極化　5
（3） 少しずつ変化しているもの２：議員の行動　10
2. トランプと共和党議員の関係　12
おわりに　15

第２章　なぜ民主党は労働者の支持を失ったのか？
— 経済・社会政策の変化から — …… 山岸 敬和 … 20
はじめに　20
1. アメリカの労働者「階級」　21
2. 世界の中のアメリカ経済　22
3. 移民と社会政策の歴史的推移　26
4. 労働者の政治的行動　31
5. トランプ的時代の経済・社会政策　33
おわりに　35

第３章　なぜ BLM 運動と警察改革が大きな争点になったのか？
— 人種関係の変化から — …… 武井 寛 … 38
はじめに　38
1. 警察暴力と人種問題　39

2. 黒人の大移動とリンチの全盛期　42
3. 公民権運動時代と警察暴力　43
4. カラーブラインド・レイシズム時代の警察暴力　46
おわりに　49

第４章　なぜ福音派はトランプを支持したのか？
— 政治と宗教の関係性の変化から —　…… 松本 佐保 … 54
はじめに　54
1. 第４次宗教覚醒運動を経て　56
2. 2016 年トランプ選挙の背景　58
3. トランプの反エリート主義とブルー・カラーの白人福音派　59
4. 合衆国最高裁判事人事と中絶及び LGBT 問題　62
5. 立法化しなかった「ジョンソン修正案廃止の大統領令」と「オバマケア廃止の大統領令」　65
6. 宗教の自由政策 — 中東からアジア太平洋へ —　66
おわりに　70

第５章　いかにしてトランプ外交は生まれたか？ — 歴史と国際関係から —
…… 佐藤 雅哉 … 74
はじめに　74
1. アメリカ外交の系譜　75
2. トランプ政権期の対外政策　77
3. トランプ政権期の対外関係と国際ジェンダー規範　83
おわりに　88

第６章 「アメリカの物語」はどこに向かっているのか？
— 大統領の語りの変化から —　…… 花木 亨 … 92
はじめに　92
1. 大統領就任演説　93

2. オバマ　94
3. トランプ　97
4. バイデン　102
5. 相違点と共通点　106
おわりに　108

第７章　シアスター・ゲイツの前衛芸術はなぜ受け入れられたのか？
―芸術と社会的文脈について―　…… 長畑 明利 … 111
はじめに　111
1. シアスター・ゲイツの「ジョージ・ヤマグチ・プロジェクト」　112
（1） 架空の日本人陶芸家　112
（2） 陶工デイヴ　113
2. 文学ホークスとの比較　114
3. 黒人アイデンティティへの敬意　115
（1） 黒人に対する人種差別撤廃と地位向上への貢献　115
（2） アイデンティティ政治　116
（3） オバマ政権時代のゲイツ　117
4.「ポスト真実」の言説とゲイツ　118
（1） トランプ時代のゲイツの活動―黒人コミュニティへの関与の継続―　118
（2） ゲイツの実験と「ポスト真実」の時代　119
（3） ゲイツのバランス感覚　121
おわりに　123

第 2 部　現場から

第８章 「永遠の奴隷」と「永遠の外国人」
— コロナ禍で露呈した根深い黒人差別とアジア系憎悪 —
…… 岩田 仲弘 … 126

はじめに　126
1. 分断あおったトランプ大統領　127
2. 加速化する歴史見直しの動き　130
3.「中国ウイルス」で繰り返される「黄禍論」　133
4.「模範神話」再び　135
5. マイノリティー間の連帯が不可欠　137
おわりに　139

第９章 「ガラスの天井」打破まであと一歩？
— 女性参政権 100 年の節目の大統領選と議会選 —
…… 岩田 仲弘 … 141

はじめに　141
1.「らしさ」の壁と「魔法の杖」　142
2.「女性の選挙参謀」は当たり前に　145
3. 史上最多の女性議員　146
4. パツィー・ミンクの功績　150
おわりに　154

第 10 章　広がる「ニュース砂漠」— GAFA 支配と地方紙の衰退 —
…… 白石 亘 … 156

はじめに　156
1.「人口 26 万人に記者 1 人」政治的な分断の温床に　157
2. 金融資本の支配が進む新聞業界　160
3. 記者の反乱　162

4. 連邦議会動く、規制なき巨人「民主主義に影響」 165
5. ネット広告独占で司法当局が提訴「グーグルは投手、打者、審判」 168
6. オーストラリア、世界初の記事使用料義務化 169
おわりに 171

第 11 章 グリーン・ニューディールと原発
— 世界最大の原子力大国の実態 — …… 赤川 肇 … 172
はじめに 172
1. グリーン・ニューディール — その起源と発展 — 173
2. 核の歴史と犠牲 174
3. 議論なき原発存続の背景 180
おわりに 185

第 12 章 ウイルスは銃規制も蝕んだ
— 相次ぐ銃撃事件と新型コロナの影響 —
…… 赤川 肇・杉藤 貴浩 … 187
はじめに 187
1. 繰り返される悲劇 189
2. アメリカ最大の圧力団体 192
3. 酒＝ NG、銃＝ OK 194
4. 権利と規制の狭間で 196
5. 大統領が助長？ 199
6. バイデン政権でも続く銃犯罪 200
7. バイデン政権の銃規制と課題 202
おわりに 204

第 13 章 Q アノン — 拡大する陰謀論と大統領選 — …… 杉藤 貴浩 … 205
はじめに 205
1. 熱狂的なトランプ氏支持 205

2. トランプ氏敗北後も続く熱狂　*209*
3. 新型コロナウイルスとQアノン　*212*
4. 連邦議会襲撃事件とQアノン　*213*
5. 陰謀論の行方　*216*
おわりに　*218*

第14章　激化する米中間の覇権争い ― 貿易戦争、経済安全保障と人権問題 ―
…… 吉田 通夫 … *220*
はじめに　*220*
1. 信頼を口にするも　*220*
2. 原点はオバマ政権にあり　*221*
3. 世界を翻弄した「タリフマン」　*223*
4.「通商問題」では対話も、深まる根本的な溝　*225*
5. 中国包囲網　*227*
6. 人権と通商　*228*
7. 経済安全保障　*229*
おわりに　*231*

第15章 「対中国」で危うさはらむ日米同盟
― トランプ外交からバイデン外交へ ― …… 金杉 貴雄 … *233*
はじめに　*233*
1. 米民主党政権へのトラウマ　*234*
2. 2人の「ハンドラー」　*236*
3. 台湾を巡る緊張　*238*
4.「台湾危機」への見方　*240*
5. ミサイル配備問題　*242*
6.「見捨てられる懸念」vs「巻き込まれる危険」　*243*
7. トランプ政権とバイデン政権、人権問題で大きな違い　*244*
おわりに　*246*

第 16 章　ハリウッドから見たアメリカ ― 多様性への挑戦 ―
…… 岩田 仲弘 … 248

はじめに　248

1. 名女優らの告発　248

2. ジョージ・タケイさんとの対話　250

3. #OscarsSoWhite　252

4. ノマドランドとミナリ ― 多様性へのさらなる挑戦 ―　253

おわりに　255

あとがき …… 山岸 敬和・岩田 仲弘 … 257

人名索引 …… 261

事項索引 …… 263

著者紹介 …… 266